

令和3年度環境活動報告

部局名： 地域科学部

教育	<p>1)環境マネジメントと環境経営:前期の全学共通科目「環境マネジメントと環境経営」において「生物多様性と環境」として講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>2)岐阜の自然と都市,そこに生きる生き物たちと人:前期の全学共通科目「岐阜の自然と都市,そこに生きる生き物たちと人」において水環境と魚類等の生物の現状,保全等に関する講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>3)魚類生態特論:大学院自然科学技術研究科の科目として,魚類の多様性と生態,それらの生息する環境についての講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>4)動物生態学:地域科学部と教育学部の学生を対象に,動物の生態と進化,それらの生息する環境についての講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>5)地域研究入門:地域科学部1年生の必修科目の中で,「自然との共生」をテーマとした講義を一回と,それに関連するパネルディスカッション形式の講義を一回行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>6)専門セミナーII,IV:自然環境と生物の進化,保全に関する専門的な講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>7)丸池清掃:岐阜大学の丸池の清掃を学生や施設課職員らとともにに行い,放流されていた魚類の捕獲とそれらについての学生・職員への説明を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>8)環境マネジメントと環境経営:後期の全学共通科目「環境マネジメントと環境経営」において「生物多様性と環境」として講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>9)生物学I:環境問題を理解する基礎となる生物学について,生物の多様性,遺伝子,進化などの重要な内容を講義した。(向井 貴彦 教授)</p> <p>10)環境保全論II:環境問題についての具体的な事例をもとに,その原因,解決のための取り組みなどを多角的に,また学外での見学などを含めて講義した。(向井 貴彦 教授)</p> <p>11)専門セミナーI,III,V:自然環境と生物の進化,保全に関する専門的な講義を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>12)卒業研究:自然環境と生物の進化,保全に関する卒業研究の指導を行った。(向井 貴彦 教授)</p> <p>13)出前講義:環境問題としての外来種問題と絶滅危惧種の保全について講義を行った。「開催場所:春日井南高校,開催日:11月1日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>14)関広美祭りの企画・実施 関牛乳・協同印刷:ゼミ活動の一貫で関市の企業と連携して,関広美祭りの企画・運営した。(甲斐 智大 助教)</p> <p>15)天空の茶畑に関する調査 岐阜県揖斐川町:ゼミの活動の一貫で岐阜県揖斐川町において,天空の茶畑に関する取り組みについての調査を行った。(甲斐 智大 助教)</p> <p>16)地域委員会に関する調査 岐阜県関市:地域学実習の一貫で岐阜県関市の地域委員会に関する調査を実施した。(富樫 幸一 教授,甲斐 智大 助教)</p> <p>17)地理学「岐阜のまちはどのようにつくられたのか」:「地理学」の講義のなかで岐阜のまちの成り立ちについて講義を行った。(甲斐 智大 助教)</p> <p>18)専門セミナー:有機化学の観点から自然環境中での化学物質の取り扱い手法,実験結果の考察手法等を教授した。また,おもに硫酸銅をモデルにして,環境中の水が金属イオン化合物にどのような影響を及ぼすかを実験的に調べる方法を教授した。(和佐田 裕昭 教授)</p>
----	--

教育	<p>19) 化学実験: 定性分析, 定量分析, 有機合成, 機器分析などの化学実験によって, 自然環境中の化学物質に関する知識等を教授した。併せて, 自然環境に負荷を与えないため廃液等の手続きに則った処理に関して教授した。(和佐田 裕昭 教授)</p> <p>20) 化学1: 自然環境を支配している量子力学の原理にもとづいて自然界を見る(例えば, 温暖化は分子と電磁波の量子力学的相互作用がもたらしている)ことができるようにするための知識等を教授した。(和佐田 裕昭 教授)</p> <p>21) 微分方程式: 自然環境で見られる生物の増殖現象をはじめとする様々な生態学の問題を, 一階線形微分方程式を利用して数理的に扱う方法等を教授した。(和佐田 裕昭 教授, 橋本 智裕 准教授, 神谷 宗明 准教授)</p> <p>22) 線形代数I: 自然環境をはじめとする人間を取り巻くあらゆる環境で現れる様々な現象や事象を, 連立一次方程式を利用して解析できるようにするための基礎として, 連立一次方程式に関する基礎理論を教授した。(和佐田 裕昭 教授)</p> <p>23) 専門セミナー: 物理化学の観点から自然環境中での化学物質の取り扱い手法, 実験結果の考察手法等を教授した。また, おもに硫酸銅をモデルにして, 環境中の水が金属イオン化合物にどのような影響を及ぼすかを実験的に調べる方法を教授するとともに卒業論文にまとめことを指導した。(橋本 智裕 准教授)</p> <p>24) 化学演習: 定性分析, 定量分析, 有機合成, 機器分析などの化学実験によって, 自然環境中の化学物質に関する知識等を教授した。併せて, 自然環境に負荷を与えないため廃液等の手続きに則った処理に関して教授した。(橋本 智裕 准教授)</p> <p>25) 物理化学: 非経験的分子軌道法ならびに密度汎関数法を利用して環境中の簡単な化合物(温暖化に関わる化合物等)を扱うための知識等を教授した。(橋本 智裕 准教授)</p> <p>26) 線形代数II: 自然環境をはじめとする人間を取り巻くあらゆる環境で現れる様々な現象や事象を連立一次方程式を利用して解析できるようにするための基礎として, 固有値問題および線形空間論に関する理論を教授した。(橋本 智裕 准教授)</p> <p>27) 専門セミナー: 専門セミナー(前期)の授業で, 地域交通, 都市計画に関する学習を行った。(應 江 黔 教授)</p> <p>28) 地域学実習: 地域学実習の授業で, 都市環境, 都市形態, 地域交通など課題について実習を行った。(應 江 黔 教授)</p> <p>29) 専門セミナー: 専門セミナー(後期)の授業で, 都市環境, 都市形態, 地域交通などについての学習を指導した。(應 江 黔 教授)</p> <p>30) 物理学Ⅲ: 物理学の実験を通じて, 自然環境中での各種の物理学的考察手法等を教授した。(神谷 宗明 准教授, 中塚 温 助教)</p> <p>31) 環境物理学Ⅰ: 物理学の実験を通じて, 自然環境中での各種の物理学的考察手法等を教授した。(中塚 温 助教, 神谷 宗明 准教授)</p> <p>32) 環境物理学Ⅱ: 専門科目(前期)の「環境物理学Ⅱ」において環境における物理的視点に関する講義を行った。(神谷 宗明 准教授)</p> <p>33) 環境物理学Ⅲ: 専門科目(前期)の「環境物理学Ⅲ」において環境における物理的視点に関する講義を行った。(中塚 温 助教)</p> <p>34) 環境マネジメントと環境経営: 全学共通科目「環境マネジメントと環境経営」(後期)で「環境法の概説」を講義した(オムニバスの一つ)。(三谷 晋 准教授)</p> <p>35) 環境法: 地域科学部の専門選択科目として主に国内法を中心に「環境法」(後期)を講義した。(三谷 晋 准教授)</p> <p>36) 社会活動演習: フィールドワークを通じてまちのデザインや人間行動との関わりについて学習した。(合掌 顕 教授)</p>
----	---

<p>教育</p>	<p>37)環境調査法:環境の測定方法およびそれに関わる人間の心理の測定法について実習を行った。(合掌 顕 教授)</p> <p>38)居住環境と心理:身の回りの環境およびそれに関わる人間の心理について講義を行った。(合掌 顕 教授)</p> <p>39)環境心理学特論:身の回りの環境およびそれに関わる人間の心理について書籍・論文の講読を行った。(合掌 顕 教授)</p> <p>40)専門セミナー:環境心理学に関わる論文・書籍の購読,卒業論文の実験・調査・分析等の指導を行なった。(合掌 顕 教授)</p> <p>41)地域研究入門:講義「まちを歩く/まちを読む」において「まちのデザインとひと」について講義した。(合掌 顕 教授)</p> <p>42)民俗学・人類学(人類学入門):全学共通科目(後期)「民俗学・人類学入門」において,文化人類学の思考法に関する授業を行った。(堀江未央 助教)</p>
<p>研究</p>	<p>1)日本爬虫両棲類学会第60回オンライン大会:日本爬虫両棲類学会大会に参加し,岐阜県のヒダサンショウウオの系統地理についての発表を行った。「場所:オンライン,開催日:9月18日—19日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>2)第55回日本魚類学会年会ウェブ大会:日本魚類学会年会に参加し,代議員会への出席や優秀発表賞に関する学会員としての作業などを行った。「場所:オンライン,開催日:9月17日(代議員総会),9月18日—20日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>3)毒性予測ソフトウェアxenoBioticの開発:xenoBioticの利用によって,企業,大学,その他における化学製品の開発に際して使用される化学薬品量を削減でき,自然環境への負荷を下げるができる。(和佐田 裕昭 教授,橋本 智裕 准教授)</p> <p>4)The 7th International Conference on Integrated Land Use Transport Modeling(2021/6/19 オンライン開催)において,Integrated Modeling of Employment Distribution and Transportation Networks in Nagoya Metropolitan Areaというタイトルで発表した。(應 江 黔 教授)</p> <p>5)研究実施:土地利用・交通モデルの解析を行った。(應 江 黔 教授)</p> <p>6)幼稚園児の生き物に対する認知と発達に関する研究:関市内の幼稚園において生き物飼育を依頼し,園児の行動観察や絵画分析を行なった。(合掌 顕 教授)</p> <p>7)東南アジア学会:「東南アジアの境界域および紛争経験社会からみた共生的関係と身体」というパネル企画の代表者として登壇し,発表した。「開催場所:オンライン,開催日:12月4日」(堀江未央 助教)</p>
<p>社会連携</p>	<p>1)令和3年度 各務原市西ライフデザインセンター前期長期講座「あなたのとりの外来種 ~生物多様性を考える~」:市民の受講者対象に生物多様性と外来種問題についての講義を行った。全5回のうちの3回を担当した。「場所:各務原市西ライフデザインセンター,担当日:6月19日,7月3日,7月17日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>2)東海シニア大学:NPO法人東海自然学園の開催するシニア向け講座「東海シニア大学」の開催講座の一つを担当し,河川の環境と魚類の多様性についての講演と魚類採集の実演を行った。「場所:岐阜大学,開催日:8月3日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>3)はざこウオッチング:郡上市和良町においてオオサンショウウオの特徴や生態と河川環境についての講演を行い,和良川でオオサンショウウオの観察を行った。「場所:和良町民センター,開催日:8月7日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>4)浜松市環境影響評価委員会:浜松市環境影響評価委員会委員として,事業についての審議を行った。「場所:オンライン,開催日:6月25日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>5)愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会:長良川河口堰による社会や自然環境への影響と,運用方法についての議論を行った。「場所:オンライン,開催日:8月26日」(向井 貴彦 教授)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">社会連携</p>	<p>6) 各務用水自然観察会: 各務用水土地改良区主催の地元親子向けの生物観察会において、各務用水の魚と環境についての講演を行った。「開催場所: 関市小屋名, 開催日: 10月2日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>7) 講演会: 大垣養老高校環境科学科の2年生に「西濃地域に残る貴重な淡水魚とその生息環境」についての講演を行った。「開催場所: 大垣養老高校, 開催日: 12月7日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>8) 岐阜県レッドデータブック改訂検討委員会: 岐阜県レッドデータブックの改訂内容について議論を行った。「開催場所: 岐阜県庁, 開催日: 11月19日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>9) 浜松市環境影響評価委員会: 浜松市環境影響評価委員会委員として、事業についての審議を行った。「開催場所: オンライン, 開催日: 2月10日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>10) 愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会: 長良川河口堰による社会や自然環境への影響と、運用方法についての議論を行った。「開催場所: オンライン, 開催日: 9月30日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>11) 愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会: 長良川河口堰による社会や自然環境への影響と、運用方法についての議論を行った。「開催場所: オンライン, 開催日: 12月8日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>12) 愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会: 長良川河口堰による社会や自然環境への影響と、運用方法についての議論を行った。「開催場所: オンライン, 開催日: 1月11日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>13) 愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会: 長良川河口堰による社会や自然環境への影響と、運用方法についての議論を行った。「開催場所: オンライン, 開催日: 2月10日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>14) 新聞記事: アユと環境問題について寄稿した。「中部経済新聞社, 掲載日: 10月19日」(向井 貴彦 教授)</p> <p>15) 新聞記事: インタビュイーとして長良川の底生魚類と食文化につき、受け答えを行った。「岐阜新聞社, 掲載日: 11月21日」(向井 貴彦 教授)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">キャンパスプラン</p>	<p>1) 教職員に対して、環境や省エネに関する「監視記録(チェックシート)」の報告を四半期毎に実施して、学部内での自己啓発を進め、より効果的な環境保全と省エネに取り組んだ。</p> <p>2) 休憩時間における消灯、講義室の消灯・空調確認、裏紙活用など資源の再利用を促進し、省エネルギーの取り組みを行った。</p> <p>3) 不要物品の再利用など廃棄物の削減を図った。</p>